

かほだより

衛生的乳質のワンランクアップに向けて！！



注目

乳房炎の最新情報

マイコプラズマ乳房炎に要注意

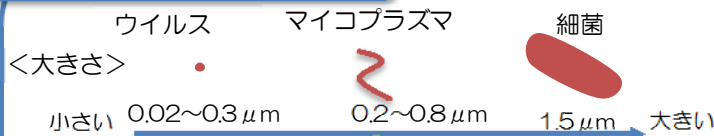
マイコプラズマ乳房炎は近年世界的に問題となっており、感染力が強く、発症牛の治療が難しい病気であり、特に、飼養頭数の多い農場における蔓延防止対策には注意が必要です。今回の広報では、このマイコプラズマによる乳房炎の概要を紹介します。

◆ マイコプラズマ乳房炎とは？ →伝染力が非常に強い。県内にも発生事例あり。

マイコプラズマ乳房炎とは黄色ブドウ球菌や無乳性レンサ球菌による乳房炎と同様に伝染性乳房炎のひとつです。ただし、マイコプラズマは他の乳房炎原因菌に比べ感染力が強いので、迅速な対応が必要です。

近年、北海道の大規模農場で問題となっていますが、長野県内においても数戸の農場で確認されています。日本国内におけるマイコプラズマのバルクタンク陽性率は 1.29% (16/1241 戸, 2013 年, 樋口ら) で、陽性率は増加傾向です。

マイコプラズマについて

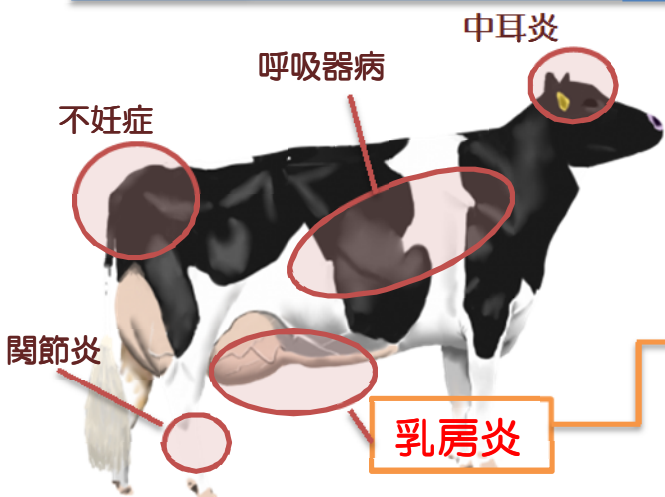


培養して育てたマイコプラズマを顕微鏡で観察した写真

マイコプラズマの大きさはウイルスと細菌の中間程度。細菌と異なり細胞壁がなく、効果のある抗菌物質も限られます。

- ① マイコプラズマは発育が遅く、検査には非常に時間（10日ほど）がかかります。
- ② 病態により排菌量が異なり、検出できないケースもあるため、疑わしい牛は数回の検査が望まれます。

◆ 牛マイコプラズマ感染症の症状は？ →乳房炎以外にも要注意。



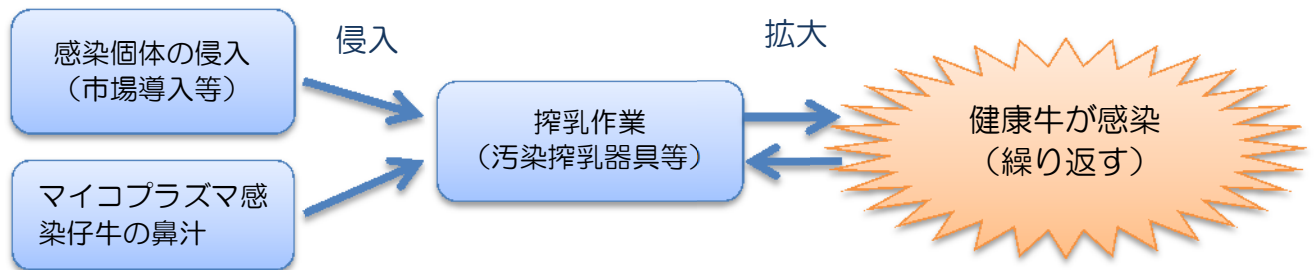
乳房炎以外にも様々な症状を引き起こします。特に子牛では呼吸器病の原因となるため、注意が必要です。

- ✓ 泌乳量の急激な低下 → 泌乳停止
- ✓ 症状は乳房に局限
- ✓ 感染初期は無症状

6 月は牛乳月間！

今月の標語：朝の習慣、牛乳飲んでお肌もきれい

◆マイコプラズマ乳房炎の主要な感染経路は？ →いたるところに感染リスクあり。



牛体の中（肺炎等）にあるマイコプラズマが血液を介して乳腺へ移行する広がり方もあります。

◆予防のためにできることは？ →まずは日常の観察と乳汁の検査を。

マイコプラズマ乳房炎蔓延防止には日常の観察とバルク乳検査との両方が重要です。

日常的な牛群の観察ポイント

1. 泌乳量の急激な低下。
2. 泌乳が短期間で停止。
3. 乳房が急激に小さくなる。
4. 異常分房に大小のしこり。
5. 一般細菌検査で陰性。
6. 同じような症状の同居牛多発。

「これまでの乳房炎と何か違う」と感じる牛がいる場合、マイコプラズマの検査も考慮し、担当獣医師と検討して下さい。

定期的な牛群の乳汁検査

- 1 バルク乳スクリーニング検査
- 2 全頭検査（個体別の乳汁検査）
- 3 感染牛の早期発見・隔離・早期治療



（事業紹介） 本年度もバルク乳検査を行います

衛生的乳質を向上させるための第一歩は、農場のバルク乳を確認することです。バルク乳を検査することで、細菌の種類や数を知り、乳房炎対策が取れるとともに、搾乳作業の問題点や搾乳機器の洗浄具合なども確認できます。

バルク乳検査を有効に活用して、安全で品質の高い生乳を生産し、乳質の低下に伴う経営面での損失を未然に防ぎましょう。

酪農生産性向上対策事業の概要

- 検査時期 6～7月と11月～12月の年2回行います。
- 採材方法 各農場を巡回してバルク乳50mlを採材します。
- 検査項目

細菌検査：	生菌数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 黄色ブドウ球菌、環境性ブドウ球菌 無乳性連鎖球菌、環境性連鎖球菌 大腸菌群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 耐熱性菌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ マイコプラズマ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・搾乳衛生の良し悪しが解ります。 ・体細胞数増加の要因となります。 ・搾乳衛生の指標となります。 ・搾乳機器の衛生状態が解ります。 ・乳房炎の原因となる病原体です。
-------	---	--

遺伝子検査：BVD-MD（牛ウイルス性下痢・粘膜病）

- 手数料 2,320円：細菌検査820円＋遺伝子検査1,500円
 （長野県生乳生産販売委員会中信地域酪農協議会より全額補助されます）

※ 遺伝子検査陽性の場合には個体検査によりウイルス感染牛を特定することをお勧めします。

個体検査は10頭までを1件として、1件当たり1,500円の手数料がかかります。

例) 20頭を検査 → 2件×1,500=3,000円 25頭を検査 → 3件×1,500=4,500円